

吉林省造の銀錢<光緒元宝>

中村雅之

1. 光緒元宝

中国のコインは伝統的に銅貨であったが、19 世紀末には世界的な趨勢に従って銀貨の製造が始まった。当時はメキシコドルが最も影響力を持っていたため、その1ドルに相当するものとして作られたのが重さ7銭2分(=約 26.86g)の銀貨「光緒元宝」である。広東をはじめ、湖北・江南・四川など各地で同様の銀貨が作られた。それらの中で、吉林で製造された銀貨は他と異なる特徴を持っている。下の画像は古代文字資料館所蔵のものである。



背面(画像右)には左右に満洲文字が記されており、吉池孝一氏は次のような解説文を記している。(Web サイト「古代文字資料館」中の「光緒元宝(吉林省造)」の解説)

清代光緒年間(1875-1908)発行の打刻錢。裏の左右に有圈点満洲文字で書かれた満洲語がある。左右とも飾り文字風となっている。左に daicing(大清)、右に gurun(国)とあり、併せて“大清国”となる。daicing(大清)は漢語の音訳で、gurun(国)は満洲語となっている。これはちょうど日本語の重箱読みのような構成となっているわけであるが、このような表現が如何にして成立したか興味深いところである。

なお、『新満漢大詞典』(主編:胡增益。新疆人民出版社、1994 年)に“amba daicing gurun i...”(48・档) という档案馆資料の用例が引かれている。amba は“大きい”という意味であるから、これを逐語訳するならば“大大清国の”となるが、もちろん漢語譯としては“大清国の”で十分である。おそらく“daicing gurun”の“dai”が固有名詞の一部として意味を表す機能が薄れたため、“大いなる、偉大なる”という満洲語 amba が、屋上に屋を架するが如く冠されたのであろう。(文責:吉池孝一 2010.5.18)

この満洲文字「daicing gurun」が記されるのは吉林省造のものに限られる。また、吉林のものは他

の地域で製造された光緒元宝よりも幾分軽いことが知られており、古代文字資料館のものは 24.4g である。

## 2. 「KIRIN」について

光緒元宝では、造幣局の所在地は表面に漢字で、背面にローマ字で記されるが、その表記法は地域ごとに別個の方式によっている。「広東」は「KWANG TUNG」、「湖北」は「HU PEH」、「福建」は「FOO KIEN」、「北洋」は「PEI YANG」、「四川」は「SZE CHUEN」、「浙江」は「CHEH KIANG」という具合である。方式は様々であるが、これらの表記がいずれも漢字の発音を示したものであることは疑いがない。しかし、「吉林」に対しては「KIRIN」という風変わりな表記がなされている。これは明らかに漢字音ではない。漢字音ならば、「R」ではなく「L」を用いて、「KILIN」ないし「CHILIN」が期待される。

英語版 wikipedia の「Jilin」の項によれば、「吉林」の語源は満洲語の「girin ula」(=along the river)で、その漢字音訳「吉林烏拉」の前二文字を取って「吉林」としたものだという。英語でその地名を「Kirin」と表記したのは、漢字音に依らずに満洲語の音に基づいたことになる。清末の満洲語では「gi」が既に無声化して、漢語の無声無気音のように発音されていたために「ki」と表記されたのであろう。

## 3. 「CANDARINS」について

この銀貨の重さは漢字では「庫平七錢二分」、背面の英語では「7.CANDARINS.2」と表記されている。重さを量るはかりは地方や役所でその基準に差があるため、どのはかりに依るかを示した部分が「庫平」である。庫平銀のほかにも海関銀や上海銀など基準の異なるものがあった。庫平の「一両」は約 37.3g、その 10 分の 1 の「一錢」は 3.73g であるから、「七錢二分」は約 26.86g ということになる。吉林省造のものが実際にはやや軽かったことについては既に述べた。

英語では、通常「両」が「tael」、「錢」が「mace」、「分」が「candareen」である。そのため広東省造など、吉林以外の銀貨では「七錢二分」に当たる英語は「7 MACE AND 2 CANDAREENS」と記されている。ところが吉林省造の銀貨では「7.CANDARINS.2」という表記であり、ここには幾つかの問題がある。まず、綴りである。「-REENS」が「-RINS」となっている。この単位はもともとマレー語に由来し、オランダ語経由で英語に入ったものであるらしいから、表記に揺れがあってもそれほど不思議な事ではない。より問題なのは、「7.CANDARINS.2」が「7.2 CANDARINS」の意味であるなら、それは「七分二厘」に相当し、決して「七錢二分」にならないということである。吉林省造の他のコインでも「庫平三錢六分」が「3.CANDARINS.6」(=3.6 CANDARINS)、「庫平七分二厘」が「CANDARINS.72」(=0.72 CANDARINS)と表記されているから、この単位のずれはいわば確信犯的なものと言えよう。なぜ吉林省造のものだけが特殊なのか、詳細は不明である。